

事業の実績

キャンパス・ピアサポート活動（以下、CPSAという）の実績は、4月以降の活動につながるプレ企画を行う。3月17日（金）13:00～16:00に実施する。場所は熊本学園大学正門入り口の産業資料館である。キャンパス・ピアサポーター（以下、CPSという）は福祉環境学科6名で対応する。春休みということで学生にはポータルサイトで情報を流す。当日は2名の参加者があり、参加した背景はCPSからの情報で興味をもって来場された。また、3月25日（土）のオープンキャンパスの活動の一環としてCPSAを行う。高校生10名、在校生3名が来場されCPSTから説明を受けたり、質問に答える形で和やかに行われた。

具体的な成果

CPSAの目的や趣旨は学生が学生に対して支援する活動である。もう少し詳しく説明するならば、学生の居場所づくりである。具体的にはCPSTが同じ目線で寄り添いながら伴走的役割を取りながらサポートすることである。例えば、大学の授業の受け方や大学生活の困りごとから悩み相談まで幅広く支援するものである。CPSAは成果というよりも課題発見につながり次のステップが見えてきた。第1回目のCPSAは3月17日（金）13:00～16:00まで活動した。得られた課題は如何にこの活動の趣旨を理解し学生が立ち寄ってくれるかということである。これは広報活動を充実させることである。この情報が届いていなければ学生から見向きもされないということである。このため事前に行った広報活動は広報誌を作成し、学生課、教務課等に設置した。さらには学生ポータルサイトにて全学生に通知した。活動当日は産業資料館入り口前に立て看板を設置し、だれもが目につきやすいようにした。この活動時間中に産業資料館に訪れた学生は2名であった。その2名の学生はこのCPSA活動を行うピアサポーターである学生から促されての来談であった。単に話をするだけではなく落ち着ける、安心できる場を提供するために湯茶を用意し、コーヒーを飲みながらゆったりと過ごす空間を作った。この2名の学生にはこの活動の趣旨を理解してもらうようにCPSが丁寧に話をした。来談した学生と話をするなかで福祉を学びきっかけや体験談を来場者の学生のみならず、ピアサポーターも同じように話をし聞き役から話し役が変わったりする体験ができた。CPSAを実施し今後の活動につなげていくためには、第一にCPSAを知ってもらうこと、第二に目的を理解し足を運んでもらうことが挙げられる。さらに、学園大学の相談機関である、なんでも相談室のスタッフや学生課職員、教務課職員等から学生に伝え連携をとることも重要である。

また、オープンキャンパスでのCPSAは来場した高校生や保護者からも好評であった。今後、この活動を継続的に進めていくことが学生支援サービスにつながり、安心して大学生活が送られる活動につながっていくことが期待できる。それはとりもなおさず学業支援である。